

## 御所市（胃がん）

### 【内容】

胃がん検診の個別受診勧奨・未受診者への再勧奨

\* 国立がん研究センター開発リーフレット活用

### 【対象】

◆40,45,50,55,60,61～69歳の男女 6,408名(6月1日発送)  
※再勧奨 6,213名(8月10日発送)

### 【中間結果対前年度比 (H27. 7未現在)】

H26	H27	対前年度
129人	180人	1.4倍

### 【中間報告会でのアドバイザーからの助言内容】

- ◆申し込み方法は、電話のみとなっているが、若い世代が公的な場所に電話をするのはハードルが高い。将来的に郵送など別の方法も検討が必要。東京ではインターネットでの申込みも既の実施している。
- ◆再勧奨の効果は、概ね2ヶ月くらい効果が持続する。集団検診は、9,10,1,2月の実施で、再勧奨を8月に実施しているが、1,2月の受診率に効果が及ばない。6月に受診勧奨、8月に再勧奨と間隔が短い。再勧奨は9月の中旬に行うなどすれば、効果は11～12月頃まで持続する。
- ◆集団検診は4回、6か月間に渡って実施している。全ての検診日に受診者を増やすために、再勧奨の時期をどう設定するかは十分に検討する必要がある。

## 葛城市（胃がん）

### 【内容】

胃がん検診の個別受診勧奨・未受診者への再勧奨

\* 国立がん研究センター開発リーフレット活用

### 【対象】

◆H27年度に41,46,51,56,61歳に達する男女 2,365名  
(5月2日発送)  
※再勧奨 1,980名(10月5日発送)

### 【中間結果対前年度比 (H27. 9未現在)】

H26	H27	対前年度
35人	75人	2.1倍

### 【中間報告会でのアドバイザーからの助言内容】

- ◆集団検診と個別検診を比較すると、自己負担額は集団検診の方が安価である。住民も集団検診を選択する方が多い。受診者数を増やそうとすれば、集団検診の機会を増やすことが効果的である。

## 広陵町（肺がん）

### 【内容】

肺がん検診の個別受診勧奨・未受診者への再勧奨

**\* 国立がん研究センター開発リーフレット活用**

### 【対象】

◆40,45,50,55,60,65,70歳の男女 コール3,295名  
(5月20日発送)

※再勧奨 3,035名(8月17日発送)

### 【中間結果対前年度比 (H27. 9末現在)】

H26	H27	対前年度
41人	99人	<b>2.4倍</b>

### 【中間報告会でのアドバイザーからの助言内容】

- ◆受診勧奨に5がんリーフレットを使用したことで、肺がん検診以外の集団検診も受診者が増えている状況は喜ばしい事。検診によっては検診の定員が設けられているものもあるが、臨機応変に定員を増やすなどの取組が必要。
- ◆大腸がん検診は死亡率減少効果が非常に高く、キャパシティの制限をほとんど受けない。大腸がん検診の受診率向上に重点的に取組むのも良い。

## 下市町（肺がん・胃がん）

### 【内容】

肺がん、胃がん検診の個別受診勧奨・未受診者への再勧奨

**\* 国立がん研究センター開発リーフレット活用**

### 【対象】

◆肺がん検診 40～69歳の男女 2,465名(5月8日発送)  
※再勧奨 2,275名(8月31日発送)

◆胃がん検診 40～69歳の男女 2,465(5月8日発送)  
※再勧奨 2,275名(8月31日発送)

### 【中間結果対前年度比 (H27. 8末)】

	H26	H27	対前年度
肺がん	39人	61人	<b>1.6倍</b>
胃がん	33人	45人	<b>1.4倍</b>

### 【中間報告会でのアドバイザーからの助言内容】

- ◆再勧奨の際、封筒に多くのリーフレットを入れると、メッセージ性が薄れ、受け取った人は内容を詳細に確認しない傾向にある。多くの案内を送るより、がん検診の種類を絞って案内を行う方が、受診率が高くなる。
- ◆町から対象者への文書の宛名が「各位」になっている。この言葉は個別感が薄れ、受け取った住民は自分の事とは思わない。「検診対象者のあなたへ」などの表現の方が、自分宛てに届いたという気持ちになる。そのような工夫も重要。